

ICUはコミュニケーションをとりながら、リハビリも進めていく場所です。

看護師A：ICUは重症の患者さんが多いというイメージ通りのところで、手術が終わった患者さんや院内・外から具合が悪くなった患者さんなどがきます。

重症の患者さんには人工呼吸器がついていたり、透析をしている方もいますが、中には普通にコミュニケーションをとれて、リハビリを進めている患者さんもいます。

自分自身もICUの患者さんとはコミュニケーションをとれるイメージは無かったです。コミュニケーションをとりながら、リハビリも進めていく場所です。

ファシリテーター：ICUでは、日常会話ができるくらいのコミュニケーションレベルの患者さんがいらっしゃるということですか？

看護師A：そうですね。心臓血管外科とかだと、手術が終わってきた時は気管挿管されているので話せないんですけど、2日目にもなると抜管されて、ご飯も食べることができるよう普通に返っていくので、一般病棟のようにコミュニ

ケーションをとっています。

でも色んなレベルの方がいるので、文字盤を使ったり、イラストを利用したり、筆談の場合もありますね。

学生：院内から来る患者さんは、手術後であることのイメージはできますが、院外からだ、どのような患者さんが来ますか？

看護師A：院外からだ、感染症や敗血症、肺炎だったりとか、大きな痙攣のてた子供であるとか、そういった感じの患者さんが多いですね。

学生：そうですね。そういった患者さんは、救急のイメージでした！

看護師A：救急はどちらかというと外傷の患者さんが多いですかね。

似たり寄ったりの部分もあるかと思いますが、救急とは連絡を取り合って先生方が入院先を決定します。

学生：先日、(ICUでの) 実習に行って、色々な疾患の患者さんがいて、覚えること



が多そうだと思いますが、苦労したことのエピソードがあれば教えてください。

看護師A：そうですね。やっぱり先輩から、色々な患者さんを受け持つので、勉強しといてと言われたりはしましたね。

勉強をしてもイメージがつきにくい部分については、自分は先輩から助言を受けて、経験しながら勉強を進めていきました。

ファシリテーター：ICUはどうですか？いきなり新人さんが入ってくる部署ですか？

看護師A：はい、新人さんも配属されます。

コミュニケーションはその人に合わせて、手探りですけど、考えます。

すごく短い入院期間の方もいれば、脳腫瘍で化学療法をされる方は6ヶ月と長く入院になる人もいます。

学生：麻痺が残ってしまうとコミュニケーションが難しいと思いますが、そのような患者さんに対してはどのように接していますか？

看護師B：コミュニケーションが取れない状態にも種類があります。わかっているけど言葉が出ない、言葉は出るけど意味が通じないといったようなこともあるので、手探りですけど、その人に合わせて考えます。

看護師B：あまり長くダラダラと話さないで、単語単語で短く区切って話すようにしています。あとは、わかりやすくイラストを利用したりもします。

あとはセラピスト、療法士の方々に相談をしたり教えてもらったりしますね。

ファシリテーター：SCU^{*}の看護師さんって脳外科を経験した人が行くところですか？

※脳卒中集中治療室

看護師B：その場合もありますけど、全く経験のない人も行きます。

でも、あまり新人さんはないかもしれないですね。

ファシリテーター：脳外科と形成外科の混合病棟では、看護師さんはどのように働いていますか？

看護師B：看護師はAチーム、Bチームに分かれていますが、受け持つ疾患に区別はなく、重症度や患者さんの状態で担当を振り分けています。

ファシリテーター：脳外科とSCUは全く別のスタッフで動いているわけですよね？

看護師B：そうですね。ステーションが別で、休憩室は一緒ですけど。顔は良く合わせるけど、別部署という感じです。



看護師B：私の働いている二病棟6階は、脳外科と形成外科の病棟になります。

脳外科は主に、くも膜下出血や脳梗塞、脳出血などの治療、脳動脈瘤治療のために来る人が多いです。形成外科は皮膚のちよとしたできものをとりに来たりだとか、今年には熊で被害を受けた人が多かったです。

現在は熊の被害は落ち着きましたが、今の時期は熱傷が多いですね。

あと、脳外科は麻痺があると、歩けない、動けない、食べられない人が多いので、寝たきりの方が多いです。形成外科でも足に熱傷がある方も歩けないので、意外と寝たきりの方が多かったりします。

